

# セリオ本社 北区の新社屋に

## 電動車いす工場併設 試走路も

シニアカー（ハンドル型電動車いす）製造販売のセリオ（浜松市西区）は十二日、本社を北区東三方町に建設した工場併設の新社屋に移転する。今春に親会社から開発・製造事業を譲り受けたのを機に、新拠点で

製品開発を加速する。望月誠社長は取材に対し、来年七月にも新たな高齢者向けの電動車を打ち出す考えを明らかにした。

本社棟、工場棟ともに二階建てで本社棟は延べ約六百五十平方メートル、工場棟は同



㊦セリオが本社を移転する新社屋。手前が本社棟、奥が工場棟（セリオ提供）  
㊧傾斜や段差を備えたシニアカーの試走路。いずれも浜松市北区で

約六千六百平方メートル。本社棟一階には製品展示スペースを設けた。工場棟はシニアカー「遊歩フジ」を製造する磐田市内の現工場から順次移転作業を進め、八月一日に本格稼働させる。初年度は前年の倍となる二千台の出荷を目指す。

本社棟は国の基準で年間エネルギー収支がゼロ以下となる「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）」の認証を受けており、工場棟の屋根に設置した太陽光発電パネルで全てのエネルギーを賄う。屋外には傾斜や段差を備えた全長二十二メートルの試走路も整備し、一般向けの試乗イベントなどに活用する。総投資額は約十六億円。

シニアカーは高齢者による運転免許自主返納の機運

の高まりで、国内出荷台数は増加傾向にある。望月社長は超高齢化社会を見据え「顧客の声を製品に生かし、一刻も早く必要としている人に届けたい」と話した。

セリオは一九九六年に設立。国内で営業所を三十六カ所、ショールーム付きの店舗を十一カ所展開している。二〇二〇年六期の売上高は五十一億円、二年六月末の従業員数は四百四十九人。  
（中平雄大）